

さらに効率的に、さらに高度に、さらに速く。

タカシヨーの広域化

住民の生命、身体および財産を火災から守るため日夜訓練に励む消防。自然環境の悪化などを主因とした想定外で未曾有の災害が多発している近年、大規模な地震、洪水などの災害発生や、救急に対する住民ニーズの変化など消防を取り巻く環境は大きな変換期を迎えている。

「タカシヨー」の愛称で親しまれていたわが町の高遊原南消防本部も例外でなく、この変化に対応するために現在の消防力の充実・強化が強く求められた。

町民が安全・安心に暮らすことができる、災害に強い消防体制を実現するため、タカシヨーは広域化という次なる一步を踏み出した。

利点が多い広域化

熊本市消防局は政令指定都市の消防本部として、特別高度救助隊や都市型災害、化学・生物・放射性物質などの特殊災害に対応する車両や資機材など、東京都と政令指定都市にしかない高度な部隊や装備を備えている。平成25年4月現在、職員数は671人、3消防署、2庁舎13出張所体制で熊本市全域の消防行政を担って

いた。

平成26年4月から消防の広域化(益城町、西原村が熊本市に消防事務を委託)が行われ、新たな体制がスタート。

今回の消防広域化で熊本市消防局が持つ高機能な資機材が、本町の救急や災害の現場の状況に応じて使用されることになった。

広域化は装備だけに限らず、特殊な訓練を受けた職員が異動・配置されることにも繋がる。特別

高度救助隊員、救急ワーカー、シヨンで研修を積んだ救急隊員、タカシヨーにはいなかった「女性」の救急隊員などさまざまなニーズや状況下に対応できる隊員の配置が期待される。

また、本町で人口が集中している広安地区の一部は東消防署が直近。東消防署からの出動が多くなったため、益城西原消防署から今までより出動回数が減少したという現場の声もある。

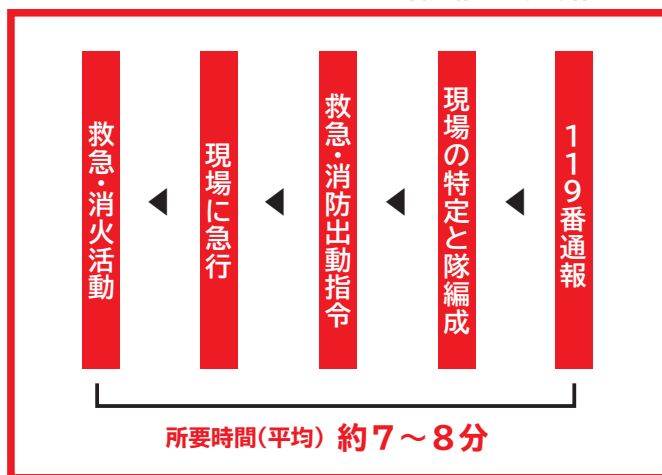
熊本市消防局

職員数 729 人
5 消防署
2 庁舎 15 出張所
(平成 26 年 4 月現在)



益城西原消防署へと移行した旧高遊原南消防本部

119 番通報から現場活動まで。



119 番の正しいかけかた

- 何があったか → あわてず、落ち着いて！
「火事です」「救急です」
- 場所はどこか → 最重要！住所をはっきりと！
「益城町〇〇〇番地」「〇〇ビルの近くです」
- どんな状況か → 具体的にはっきりと！
「台所が燃えています」「交通事故でケガ人がいます」